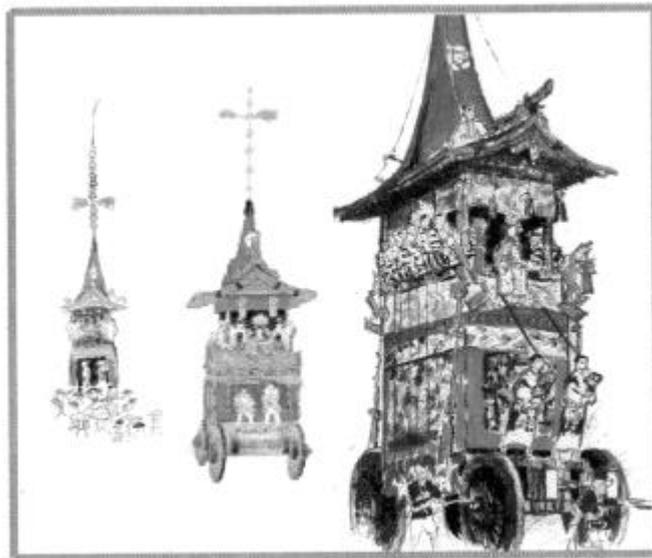


第55回日本人類学会大会 連合大会  
第17回日本霊長類学会大会

## 予稿集



7月12日(木)～7月15日(日)

国立京都国際会館

2001

平成 13 年 7 月 12 日 (木) 会場：京都大学

霊長類学会自由集会	理学 2 号館 第一講義室	理学 2 号館 第二講義室	理学 2 号館 第三講義室	人間・環境学研究所 地階大講義室
	12:30-15:45 第 3 回サル類の疾病に関するワークショップ	12:45-15:45 霊長類の保護と利用-和歌山タイワンザル問題の現状と保全生態学からみた移入種問題-	12:45-15:45 霊長類の研究利用：野生ニホンザルを中心に	
				16:00-18:50 公開シンポジウム 1・今西錦司博士生誕 100 年記念 「伝えること，学ぶことの原点：霊長類学からのメッセージ」
			19:00- ウェルカム・パーティー (吉田生協)	

平成 13 年 7 月 13 日 (金) 会場：国立京都国際会館

A 会場 B-1 室	B 会場 B-2 室	C 会場 C-1 室	D 会場 C-2 室
8:30-11:45 S1 「シリア，デデリエ洞窟調査 10 年の歩み」	8:30-11:45 S2 「音声人類学入門」	8:30-9:30 古人骨 (C1-4)  9:30-11:45 生態 (C5-13)	8:45-10:00 行動・認知 (D1-5)  10:00-11:45 ウイルス・遺伝子発現 (D6-12)
11:45-13:15 人類学会評議員会			
13:15-14:00 P 会場 ポスター討論 (奇数番号)			
14:00-15:30 人類学会総会			
15:30-18:30 S3 進化人類学分科会 「新世紀の人類・霊長類学」	15:30-18:30 S4 骨考古学分科会 「古人骨の受傷痕：その事例と原因武器」	15:30-17:00 骨と歯の形態学 (C14-19)	15:30-18:00 社会 (D13-22)

平成 13 年 7 月 14 日 (土)

A 会場	B 会場	C 会場	D 会場
8:30-11:45 S5 人類学会・民族学会 合同シンポジウム 「食物は競合する ものか，共有するも のか」	8:30-11:45 S6 オークソロジー分 科会 「21 世紀日本人の 脳と身体の成長」	8:30-10:00 性 (C20-25)  10:00-11:45 運動 (C26-C32)	8:30-10:15 古霊長類・古人類 (D23-29)  10:15-11:00 変異・系統 (D30-32)
11:45-12:45 霊長類学会 評議員会			
12:45-13:30 P 会場 ポスター討論 (偶数番号)			
13:30-14:30 霊長類学会総会			
14:30-15:30 霊長類学会賞等 関連行事	14:30-17:30 S7 遺伝分科会 「ヒトを含む霊長 類における DNA 多 型」	14:30-17:30 S8 キネシオロジー分 科会 「骨盤：歩行と出産 のパラドックス」	15:30-17:30 成長・老化 (D33-40)
15:45-16:45 保護管理 (A1-4)			

平成 13 年 7 月 15 日 (日)

A 会場	B 会場	C 会場	D 会場
8:45-12:00 S9 「人類進化とアフ リカの植生」	8:45-12:00 S10 歯の人類学分科会 「顎と歯の機能形 態学 - 霊長類から ヒトへ - 」	8:45-11:45 遺伝子多型・ゲノム (C33-44)	
13:00-16:50 公開シンポジウム 「快適環境新時 代:21 世紀の過ごし 方を考える」			
17:00- フェアウェル・パー ティー (P 会場)			

## 大会参加者への注意事項とお願い

### 大会会場

大会は、国立京都国際会館(<http://www.joho-kyoto.or.jp/KICH/index.html>)を会場として開催いたします。会場へのアクセスとフロアレイアウトについては、本予稿集掲載の地図(7, 9ページ)をご覧ください。

なお、7月12日(木)開催の日本霊長類学会自由集会と公開シンポジウム、ウェルカムパーティーは京都大学構内(京都市左京区, 8ページ地図参照)で行われますので、ご注意ください。

### 総合受付

すべての参加者はお早めに総合受付にて参加登録をお済ませ下さい。受付時間は、

7月12日(木)	15:30~20:00
7月13日(金)	8:00~18:30
7月14日(土)	8:00~18:30
7月15日(日)	8:00~17:00

です。名札、弁当引換券などをお渡しいたします。大会参加費、パーティー参加費を未納の方はこちらでお支払い下さい。受付の場所は、本予稿集の地図(9ページ)をご覧ください。12日の受付は、公開シンポジウム会場(京都大学吉田キャンパス・人間・環境学研究科地階大講義室)、及びウェルカムパーティー会場(京都大学吉田キャンパス・吉田生協)で行います。

クロークのご利用時間は、

7月13日(金)	8:00~19:00
7月14日(土)	8:00~19:00
7月15日(日)	8:00~19:00

です。12日はクロークを用意いたしません。ご注意ください。

### 会費

前納の場合、大会参加費 7,000円(学生5,000円)、パーティー参加費 1,000円ですが、当日払いはそれぞれ8,000円(学生6,000円)、1,500円になります。

### 昼食

弁当の予約は終了いたしました。当日、会場ではお求めになれません。会館内のレストラン、会館周囲の飲食店をご利用下さい。お弁当は13・14・15日のお昼から総合受付前にて、弁当引換券とお引き換えいたします。

### 休憩所

101室内、C会場(C-1室)前に、コーヒー、湯茶などをご用意いたします。なお本大会では、環境保護のため、紙コップなど使い捨て茶器は使用いたしません。十分な数の茶器が用意できないおそれもありますので、できればご自分のコップなどをお持ちくださいますようお願い申し上げます。また、お飲物は国際会館ラウンジでも有料で提供しております。

### 一般口演

発表時間 12 分，質疑応答 3 分でお願いいたします。下記のように経過時間をお知らせいたします。終了時間は厳守してください。

1 鈴 10 分，2 鈴 12 分（発表終了），3 鈴 15 分（討論終了）

口演には 35 mm スライドまたは OHP が 1 台使用できます。液晶プロジェクターは，シンポジウム講演以外では使用できませんのでご注意ください。VHS ビデオは事前に連絡をいただいている方のみ使用可能です。

座長ならびに発表者は，発表の 15 分前までに該当する会場にて待機するようお願いいたします。スライドは発表の 30 分前までに該当する会場のスライド受付にお渡し下さい。OHP の操作は各自で行って下さい。発表の際に資料を配布される方は，事前に必要部数をご用意願います。コピー機は国際会館でもご利用できますが（有料），あらかじめ必要部数をコピーしておいでになることをお勧めいたします。

“Anthropological Science”（人類学雑誌）掲載用抄録原稿（英文，A4 版）および「霊長類研究」掲載用抄録原稿（和文または英文，B4 版）は，大会当日に各スライド受付にご提出下さい。原稿はオフセット印刷になりますので，ワードプロセッサ等を用い黒字で鮮明に印刷して下さい。抄録用紙に記載された作成上の注意を守り作成して下さい。

### ポスター発表

P 会場（103 室，104 室）に，1 演題につきパネル 1 枚（サイズ幅 90cm×高さ 180cm）を用意いたします。ポスターの貼付は 7 月 13 日（金）午前中にすませて下さい。画鋏などのポスターの留め具は，各自ご用意ください。

パネルの左上に演題番号を掲示してあります。発表者は，パネル最上部に「発表題名，発表者（所属）を掲示してください。ポスターは，7 月 13，14 日の両日掲示してください。

7 月 13 日（金）は，13：15～14：00，7 月 14 日（土）は，12：45～13：30 に，質疑応答の時間を設けます。13 日は演題番号が奇数，14 日は偶数のポスターの討論日です。発表者の方は，各自のポスター前に待機するようお願いいたします。

ポスターは，7 月 14 日（土）17：00～18：30 の間に撤去してください。

“Anthropological Science”（人類学雑誌）および「霊長類研究」掲載用抄録原稿は，一般口演の場合と同様に作成し，大会当日，総合受付にお渡し下さい。

### シンポジウム

本大会では 10 のシンポジウムが予定されております。進行はオーガナイザーに一任いたします。シンポジウムの“Anthropological Science”（人類学雑誌）および「霊長類研究」掲載用抄録原稿は，一般口演の場合と同様に作成し，大会当日，各会場受付にお渡し下さい。

### 日本霊長類学会自由集会

7 月 12 日（木）午後に京都大学北部構内，理学 2 号館において行います。進行は責任者に一任いたします。“Anthropological Science”（人類学雑誌）および「霊長類研究」掲載用抄録原稿を提出していただく必要はございません。

## 総会等

### 日本人類学会 評議員会・総会

評議員会 日時：7月13日(金) 11:45~13:15

会場：A会場(2階 B-1)

総会 日時：7月13日(金) 14:00~15:30

会場：A会場

### 日本霊長類学会 評議員会・総会

評議員会 日時：7月14日(土) 11:45~12:45

会場：A会場(2階 B-1)

総会 日時：7月14日(土) 14:30~15:30

会場：A会場

総会に引き続き、16:30まで学会賞等関連行事が開催されます。

## その他の会議のご案内

### 日本人類学会 進化人類学分科会 総会

総会 日時：7月13日(金) 18:30~18:40

会場：A会場

### 日本人類学会 歯の人類学分科会 総会

総会 日時：7月15日(日) 11:45~12:00

会場：B会場

## ウェルカム・フェアウェルパーティー

本大会では、懇親会を行いませんが、大会前夜と最終日に、ビアパーティーを催します。人類学会と霊長類学会が共催されるのは初めてのことです。是非ご参加下さい。

### ウェルカムパーティー

日時：7月12日(木) 19:00~20:30

会場：京都大学 吉田生協

会費：1,000円(前納,当日は1,500円)

### フェアウェルパーティー

日時：7月15日(日) 16:10~17:30

会場：国立京都国際会館 P会場(103室,104室)

会費：1,000円(前納,当日は1,500円)

一般公開シンポジウム・特別講演  
本大会では、2つの一般公開シンポジウムを企画しています。是非ご参加下さい。

平成 13 年度文部科学省科学研究費補助金「研究成果公開促進費」補助事業

**公開シンポジウム 1・今西錦司博士生誕100 年記念**  
**「伝えること、学ぶことの原点：霊長類学からのメッセージ」**

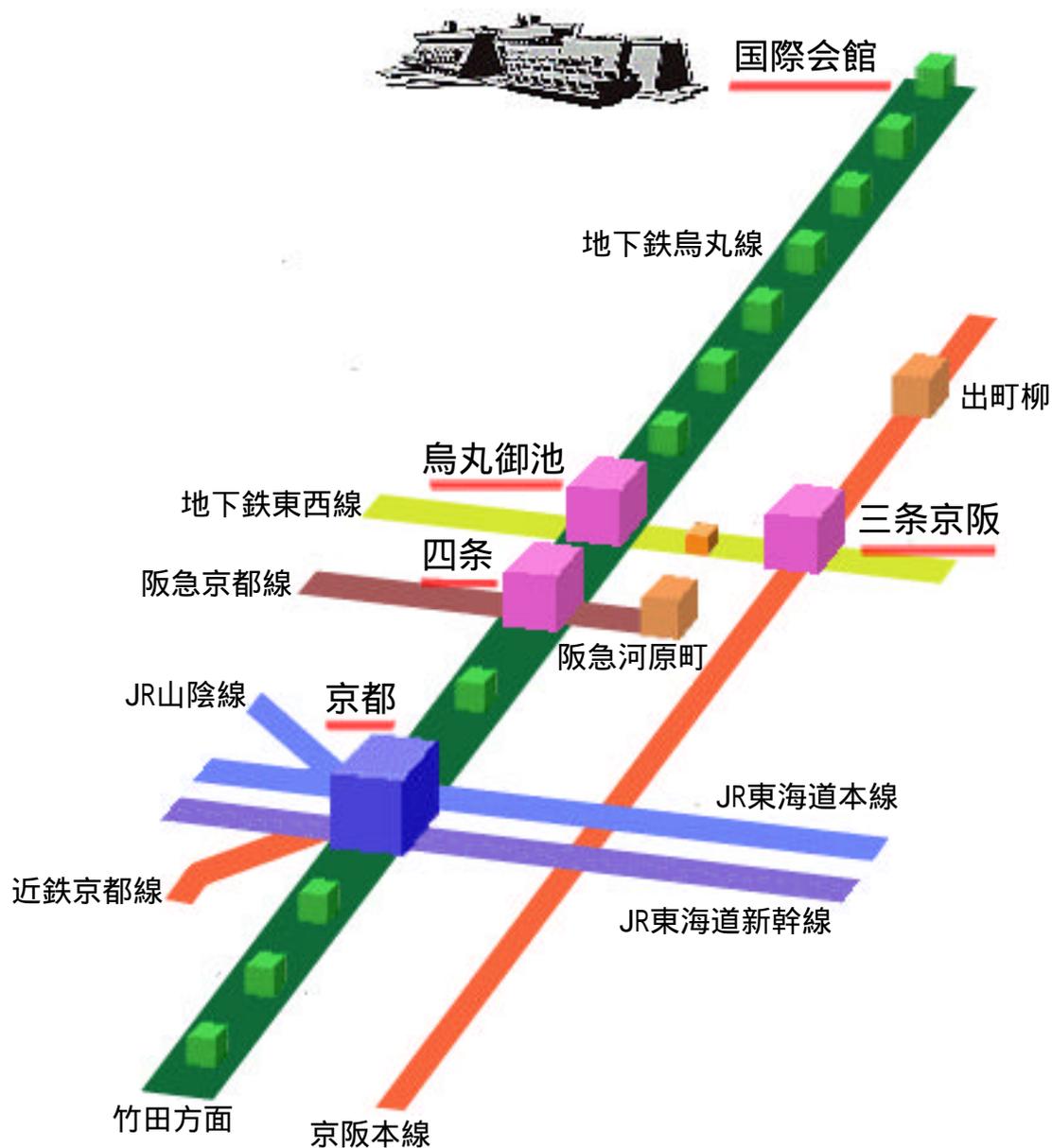
日時： 7月12日(木)16:00~18:50  
会場： 京都大学 大学院人間・環境学研究科地階大講義室  
講演： 西田利貞(京都大・理), 田中伊知郎(四日市大), 明和政子  
(京都大・霊長研), 橋本千絵(京都大・霊長研)  
司会： 古市剛史(明治学院大)  
オーガナイザー： 西田利貞(京都大・理)

**公開シンポジウム 2**  
**「快適環境新時代：21 世紀の過ごし方を考える」**

日時： 7月15日(日)13:00~17:00  
会場： 国立京都国際会館 A 会場(2階 B-1)  
講演： 波平恵美子(お茶の水大・文教), 香原志勢(帝塚山学院大・人間文化),  
栄久庵憲司(株式会社 GK デザイン機構), 加藤尚武(鳥取環境大),  
小木和孝(財団法人労働科学研究所)  
コメント： 藤井秀雪(株式会社七彩・広報・造形企画), 馬場悠男(国立科博・人類),  
日高敏隆(総合地球環境学研)  
オーガナイザー： 黒田末寿(滋賀県立大・人間文化)

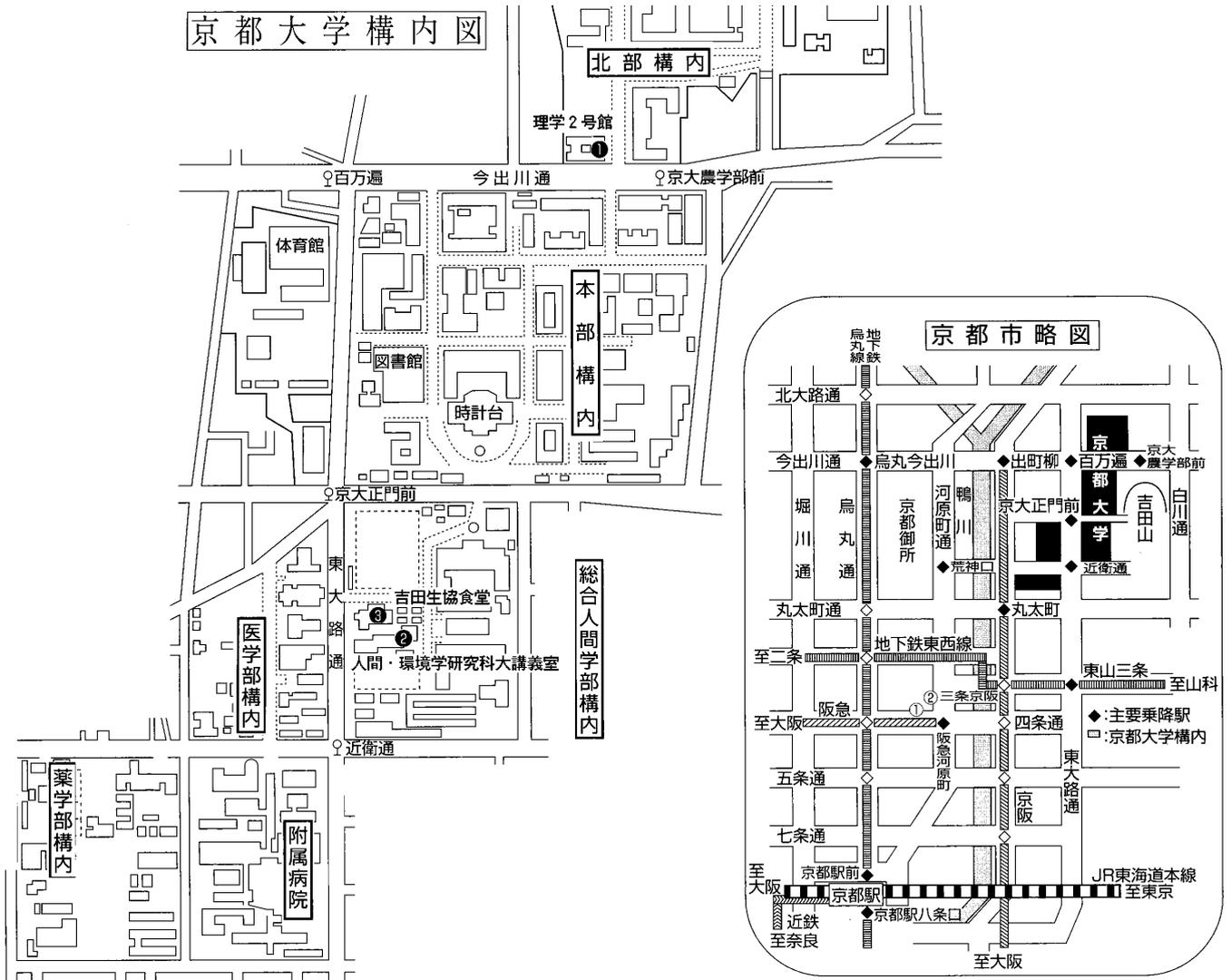
## 京都国際会館までの交通案内

京都駅から国際会館駅まで 20分



京都市地下鉄（烏丸線）をご利用下さい。京都駅で JR に、四条駅で阪急京都線、烏丸御池駅で地下鉄東西線に接続しています。「国際会館駅」下車、地下通路を通り、出口 4-2 をご利用下さい。駅から会場まで徒歩 5 分です。

## 京都大学会場案内



### 市バス案内

京都駅

「京都駅前」より

206 系統「京大正門前」または「百万遍」  
17 系統「百万遍」または「農学部前」

阪急河原町

のりばより

201 系統・31 系統「京大正門前」または「百万遍」

のりばより

3 系統・17 系統「百万遍」または「農学部前」(17 系統のみ)

地下鉄烏丸線今出川駅

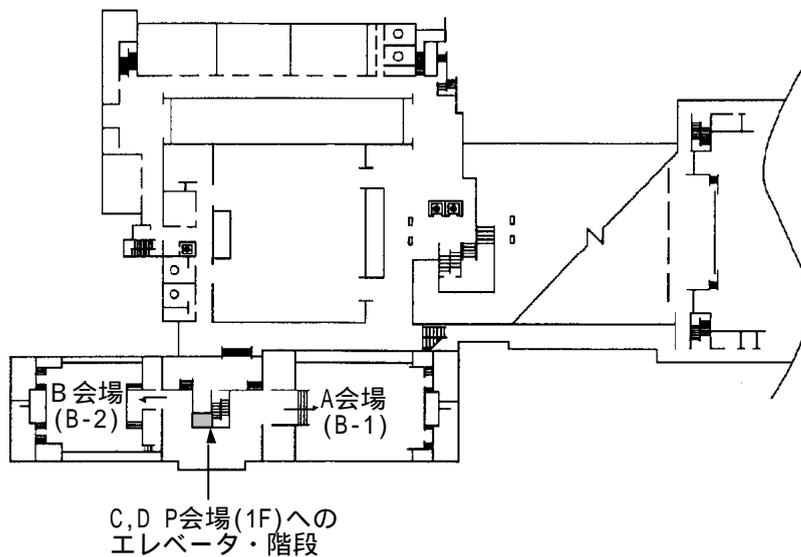
「烏丸今出川」より

201 系統「百万遍」または「京大正門前」

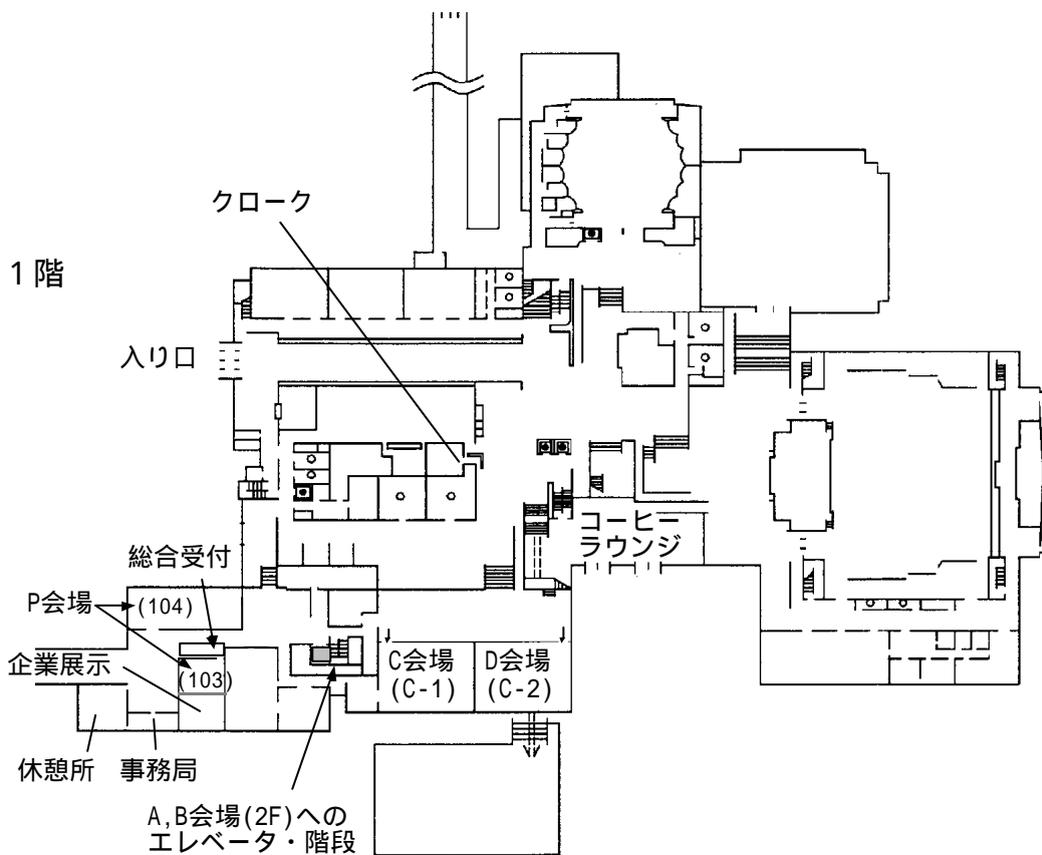
203 系統「百万遍」または「農学部前」

# 国際会議場会場案内図

2階



1階



7月12日(木)午後

霊長類学会自由集会  
理学2号館講義室

自由集会1 第1講義室(12:30~15:45)

第3回サル類の疾病に関するワークショップ

責任者: 柳井徳磨

連絡先: 〒501-1193 岐阜市柳戸1-1 岐阜大学獣医学部病理学教室

電話 058-23-2944 電子メール yanai@cc.gifu-u.ac.jp

最近, ヒトに近縁なサル類を用いた医用実験の機会が増加しています。これらの実験をデザインする際に飼育管理に関する技術は確立されているものの, その疾病を含めた病的状態に関する基礎情報は非常に少なく, また, 研究者間の情報交換の場がないため, それぞれの経験をデータベースとして蓄積する方法がありませんでした。感染症新法の実施にともなう動物検疫の基礎となる感染症に関する情報や, 医薬品開発のための薬効, 安全性試験の基盤となる, 自然例での感染症, 腫瘍, 加齢性疾患に関する情報を互いに持ち寄り, 日本における感染症を含めたサル類の病態, 病理の情報交換の場を確保する目的で本ワークショップを開催します。

安全性評価で問題になるサルの自然発生性病変

渡辺満利, 下井昭仁(持田製薬), 小泉治子(日本たばこ)

サルを用いた安全性試験に遭遇する自然発生性病変につき概説する。

京大霊長研におけるサル類の疾病

後藤俊二(京大霊長研)

京大霊長類研究所における, サル繁殖コロニーに認められた疾病の

変遷について述べ

る。

エボラレストンの自然感染例の病理

池上徹郎(東京大学大学院)

フィリピンにおけるエボラレストン株の感染例の病理学的特徴を紹

介する。

サルにおける下痢症の臨床

小野文子(予防衛生協会)

サルの臨床でしばしば問題となる下痢症について, 事例をあげて概

説する。

症例報告

自由集会2 第2講義室(12:45~15:45)

霊長類の保護と利用 - 和歌山タイワンザル問題の現状と保全生態学からみた移入種

7月12日(木)午後

問題 -

責任者：和秀雄，大沢秀行，丸橋珠樹  
連絡先：(丸橋珠樹) 〒176 練馬区豊玉上 1-26-1 武蔵大学人文学部  
電話 03-5984-3847 電子メール maruhasi@cc.musashi.ac.jp

和歌山県のタイワンザル問題では，捕獲個体を安楽死させる案への反対意見が県に集中して出されたため，「不妊処置後，島に放獣する」，「大きな囲いを作ってその中で飼育し続ける」というような代替案が検討されたが，いずれも問題があり断念された．3月現在では捕獲計画が宙に浮いた状態となっている．

昨年(2000年)11月にPSJ会長と保護理事が環境庁へ要望に行き，2001年3月の理事会では，学会として県に対して早急に要望書を出すことになった．本自由集会では，これまでの経緯を報告するとともに，保全生態学からみた移入種問題について理解を深めていきたい．

自由集会3 第3講義室(12:45~15:45)  
霊長類の研究利用：野生ニホンザルを中心に

責任者：上野吉一  
連絡先：〒484-8506 犬山市官林 京都大学霊長類研究所 人類進化モデル研究センター 生命倫理研究領域  
電話 0568-630561 電子メール okuma@pri.kyoto-u.ac.jp

昨年末の新聞報道をはじめとし，野生ニホンザルの研究利用が社会的問題となってきている．これは研究利用のみならず，野生ニホンザルの保護と管理という点とも関わる問題である．霊長類学会は野生ニホンザルの実験利用に対し批判的な姿勢を示したきているが，他学会には実験利用を望む声がある．野生ニホンザルの保全と倫理に配慮したルール作りのためには，現状を整理し問題点を明らかにすることが必要である．そこで本集会では，異なる立場からの意見を聞き，より社会的合意の得られる霊長類の研究利用の道を考えたい．

野生ニホンザルの研究利用に対する社会的関心(仮題)  
清水弟(朝日新聞)  
エンドユーザーとしての自己規制とその可能性(仮題)  
伊佐正(生理研)  
野生ニホンザルの管理・保全における問題点(仮題)  
室山泰之(京大・霊長研)  
実験動物としての野生ニホンザル(仮題)  
鳥居隆三(滋賀医大)

7月12日(木)午後

平成13年度文部科学省科学研究費補助金「研究成果公開促進費」補助事業

公開シンポジウム1・今西錦司博士生誕100年記念

伝えること、学ぶことの原点：霊長類学からのメッセージ

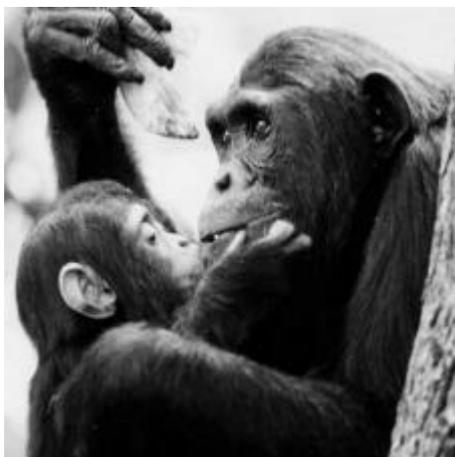
人間環境学研究科地階大講義室

オーガナイザー：西田利貞（京都大・理）

教育問題は、現在多くの国で真剣に取り組む国家的な問題となっています。わが国では、学級崩壊、友達の不在、低年齢殺人、ひきこもり、パラサイト・シングルなど、さまざまな問題が顕在化し、それに対処するための真剣な取り組みが各地で行われています。近頃の子どもは、「喧嘩の仕方を知らない」、「挨拶ができない」、「質問をしない」、「乗り物で席を譲らない」、「ひとりで食事をする」など、いろいろな批判も飛び交っています。

日本の霊長類学は、1948年、今西錦司博士の指導下で始まりました。その後50余年にわたりヒト以外の霊長類の行動や社会、生態、心理に関する資料を蓄積してきました。これらの研究成果は、上にあげた問題の解決に、なんらかの示唆を与えることができるのでしょうか？ 今回の公開シンポジウムは、子ザルが母親や、遊び仲間や大人のメンバーとどのようにつきあい、なにを学んでいくのかを論じて、議論の材料を提供したいとおもいます。教育問題は学校のみの問題ではありません。家庭や地域社会のあり方が大いに関係するでしょう。参加者とともに明日の教育を考える機会となるよう願っています。

- 16:00～16:10 古市剛史（明治学院大）趣旨説明  
16:10～16:45 西田利貞（京都大・理）日本サル学と文化の研究  
16:45～17:20 田中伊知郎（四日市大）母はなにを伝え、子はなにを学ぶか  
17:20～17:55 明和政子（京都大・霊長研）遊ぶこと・学ぶこと  
17:55～18:30 橋本千絵（京都大・霊長研）オトナたちから学ぶ性と社会行動  
18:30～18:50 総合討論 司会：古市剛史



7月13日(金)午前

シンポジウム1 A会場  
シリア, デデリエ洞窟調査10年の歩み

オーガナイザー: 石田 肇(琉球大・医・解剖学第一)

シリア, デデリエ洞窟は, 1987年, 日本・シリア両国の合同調査によって発見され, 1989年に開始した発掘調査によって, レヴァント地域で同定されている中期旧石器, いわゆるムステリアンを包含する地層と同じく同地域の中石器を代表するナトゥーフアンを包含する地層が極めて良好な状態で堆積していることが判明した. 発掘の進展とともに, 両地層から石器, 動物化石, 植物化石が発見された. そして, 中期旧石器の地層から化石人骨が発見され, その数は, 今日までに, 最小個体数にして10個体にのぼる. なかでも, 1993年に発見されたデデリエ洞窟第一号埋葬人骨(以下1号人骨), 1997年に発見された同第二号埋葬人骨(以下2号人骨)は, その出土状態および保存状態の良好さによって数々の新知見をもたらす可能性がある. 今回は, 10年を超えるデデリエ洞窟調査について, ネアンデルタール人骨の発見を中心に総括することを目的とする. 具体的には, 発掘調査, ネアンデルタール人骨, 中期旧石器および年代測定に分けて, それぞれの専門家が紹介するとともに, さらに, コンピュータを用いた化石人骨の復元のもたらす今後の研究の展開を紹介していきたい.

- 8:30 ~ S1-1 シリア, デデリエ洞窟の発掘  
赤澤威(日文研), スルタン・ムヘイセン(ダマスカス大・文), 百々幸雄(東北大院・医), 石田肇(琉球大・医), 近藤修(東京大院・理), クリストフ・ダリゴ(グノーブル大・古生物)
- S1-2 シリア, デデリエ洞窟出土ネアンデルタール人骨  
石田肇(琉球大・医), 近藤修(東京大院・理), 百々幸雄(東北大院・医)
- S1-3 シリア, デデリエ洞窟の中期旧石器  
山科哲(明治大・文), スルタン・ムヘイセン(ダマスカス大・文), 赤澤威(日文研)
- S1-4 デデリエ洞窟遺跡における分子種レベルでの放射性炭素年代決定  
米田穰, 柴田康行, 森田昌敏(環境研・化学), 廣田正史(環境研究セ), 内田昌男(海洋科学技術セ), 赤澤威(日文研)
- S1-5 デデリエネアンデルタール幼児の復元  
Christoph Zollikofer, Marcia Ponce de Leon(チューリッヒ大), 近藤修(東大・理), 石田肇(琉球大・医), 鈴木宏正(東京大院・工), 小林靖, 土屋一洋(杏林大・医), 赤澤威(日文研)
- ~ 11:45 総合討論

シンポジウム2 B会場  
音声人類学入門

オーガナイザー: 本多清志(ATR)

音声は人間の生活においてあるいは社会の形成において大きな位置を占めている. 音声の役割を考えてみると, 思考の媒体として筋道の理解や言語行動の準備に用いられる, 情報交換の媒体として通信に用いられる, 情緒的意識を反映する媒体として人間関係の醸成に用いられる, 生物学的情報の媒体として個人認証に用いられる, などの種類に分けることができ

7月13日(金)午前

る。音声の研究は、これらの多種多様な課題を扱う領域群として長い歴史をもつが、もちろん残された課題の方が大きい。その一例として人間の音声を支える生物学的背景の問題があげられる。言語の体制を支え発声と聴覚を結び大脳の拡大が重要であることはいうまでもないが、このほかに、音節の生成については呼吸、発声、発話の随意運動を独立に調節する神経回路の発達が不可欠であり、音韻体系の成立にあたっては、音源を調節する喉頭機能の分化や、喉頭下降と並行して生じた舌などの発話器官の形態的变化が重要な役割を果たしているであろう。さらに、これらの生物的要因が人間と動物の間でどのように類似し、人間のこゝろが進化する過程をたどる際にどのような手がかりとなるかは誰もが興味をもつことではないかと思われる。このシンポジウムでは「音声人類学入門」と題して、音声に関わる生物学的背景を議論したい。

- |         |      |  |
|---------|------|--|
| 8:30 ~  | S2-1 | 喉頭機能の樹上運動への適応とその人類進化への意義<br>葉山杉夫(葉山霊長研・機能形態) |
|         | S2-2 | チンパンジーの音声・聴覚機能<br>小嶋祥三(京都大・霊長研)              |
|         | S2-3 | 話し言葉における喉頭の機能<br>新美成二(国際医療福祉大)               |
|         | S2-4 | 話し言葉を支える舌の形態と機能<br>竹本浩典(ATR)                 |
| ~ 11:45 | S2-5 | 呼吸、嚥下、そして発話の進化<br>西村剛(京都大・霊長研)               |

一般口演：古人骨 C会場

- |      |    |  |
|------|----|--|
| 8:30 | C1 | 千葉県平戸台2号墳出土人骨について<br>橋本裕子(総研大院・文化科学・国際日本)                                  |
| 8:45 | C2 | 特異な状態で出土したクック諸島・ラロトンガの先欧期ポリネシア人骨<br>吉田俊爾, 佐藤巖(日本歯科大・歯・解剖1), 岡嶋格(東横学園女子短期大) |
| 9:00 | C3 | 柘原貝塚縄文人骨に見られた下顎治癒骨折<br>峰和治(鹿児島大・歯・口腔解剖), 小片丘彦(鹿児島大・名誉教授)                   |
| 9:15 | C4 | 大腿骨骨体断面形状からみた関東縄文時代人の特徴<br>木村賛(東京大・理・人類)                                   |

一般口演：生態 C会場

- |      |    |  |
|------|----|--|
| 9:30 | C5 | GPS テレメトリーによるニホンザルの遊動調査<br>D.S. Sprague(農環研), 蒲谷肇(東京大・演習林), 萩原光(房総のサル管理調査会)        |
| 9:45 | C6 | ブロック分割定点調査法によるニホンザル集団密度の推定<br>半谷吾郎(京都大), 好廣眞一(龍谷大), 座馬耕一郎(京都大), 高畑由起夫(関西学院大), 久保律子 |

7月13日(金)午前

- 10:00 C7 マハレの昼行性中・大型哺乳類, とくに霊長類の生息密度: 1996年と2000年の比較  
上原重男(京都大・霊長研・生態機構)
- 10:15 C8 東京都に生息する盆堀群の分裂  
井口基(西多摩経済事務所・農務課)
- 10:30 C9 スラウェシマカク雑種個体群の研究  
渡邊邦夫, 後藤俊二(京都大・霊長研), 榎本知郎(東海大・医)
- 10:45 C10 ガボン・モカラバリザープにおける類人猿の人付けの可能性について  
岡安直比(ハウレッツ財団), 西村剛, 濱田穰(京都大・霊長研・形態)
- 11:00 C11 チンパンジーはどこに泊まるか: 地形・植生・採食樹からの検討  
古市剛史(明治学院大・一般教育部), 橋本千絵(京都大・霊長研・社会構造)
- 10:15 C12 アフリカ熱帯雨林に居住するピグミー系狩猟採集民の栄養状態とフィジカル・フィットネス  
山内太郎(東京大・医・人類生態)
- 10:30 C13 長い後肢がもたらした乾燥地における採食上のメリット: パタスモンキーとヒトのアナロジー  
中川尚史(神戸市看護大)

一般口演: 行動・認知 D会場

- 8:45 D1 コインを用いた役割分担課題におけるチンパンジー同士のコインの受け渡し  
平田聡, クローディア・ソウザ(京大・霊長研)
- 9:00 D2 マカカにおける母性行動がアカンボに及ぼす影響  
M. Bardi, M. A. Huffman(京大・霊研)
- 9:15 D3 ニホンザル幼児がシラミ卵押収を許容する(知識を引き出す)条件  
田中伊知郎(四日市大・環境情報)
- 9:30 D4 個別飼育されたカニクイザルへの天井フィーダーの導入の効果  
友永雅己(京都大・霊長研・思考言語)
- 9:45 D5 新世界ザルにおける「行為のワーキングメモリ」の比較研究  
辻本悟史(北海道大・文・心理), 澤口俊之(北海道大・医・機能分子),

一般口演: ウイルス・遺伝子発現 D会場

- 10:00 D6 改良 HVP2-ELISA の確立およびBウイルス SPF モニタリングへの応用  
光永総子, 中村伸(京都大・霊長研), 林隆志(イナリサーチ), N.L.J.Miranda (INARP), 長文昭(イナリサーチ, 筑波医用霊長類センター), 清水慶子(京都大・霊長研), 植田昌宏(エスアールエル), R. Eberle (OSUVM)
- 10:15 D7 Bウイルスに対するDNAワクチンの開発  
平野真, 中村伸, 光永総子, 岡田真紀, 清水慶子(京大・霊長研・分子生理), Alice Bennett(化学生物防疫セ), Richard Eberle(オクラホマ州大)

7月13日(金)午前

- 10:30 D8 SDF-1 遺伝子 3'非翻訳領域におけるメチル化と mRNA 発現  
木村亮介, 石田貴文(東京大・理・生物科学)
- 10:45 D9 カニクイザル脳組織における Presenilin 蛋白の検索  
木村展之(東大・実験動物), 中村紳一郎(日獣大・獣医病理), 吉川泰弘  
(東大・実験動物)
- 11:00 D10 カニクイザル末梢リンパ球におけるプリオン分子の発現  
村山裕一(農水省・家衛試, 科技団・科技特), 向井鎌三郎(感染研・筑  
波霊長類センター), 三浦克洋(農水省・家衛試)
- 11:15 D11 マカク延命細胞にみられた p53 遺伝子異常  
清水裕子(東京大・理・人類), 寺尾恵治(つくば霊長類センター), 石田  
貴文(東京大・理・人類)
- 11:30 D12 レトロウイルスベクターを用いたカニクイザル造血幹細胞への遺伝子導  
入  
柴田宏昭(感染研), 花園豊, 長島建之(自治医大), 揚山直英(感染研),  
浅野隆之(自治医大), 上田泰次(DNAVEC), 久米晃啓(自治医大), 加  
藤郁之進(宝酒造), 長谷川護(DNAVAC), 小澤敬也(自治医大), 寺尾  
恵治(感染研), 吉川泰弘(東京大)

7月13日(金)午後

シンポジウム3 A会場  
新世紀の人類学・霊長類学  
(進化人類学分科会シンポジウム・文部科学省 COE 拠点形成プログラム共催)

オーガナイザー：竹中修(京都大・霊長類研究所)

理学の分野において20世紀後半は生物学の時代とする意見がある。前半の相対論、量子論の物理学時代との対比の考え方である。生物学の時代のその初期はバクテリアからヒトまでの生命の統一原理の追求であったのに対して、1980年代後半からDNAを基礎とした生物の多様性とその進化が注目されている。われわれの地球はなぜこのような多様な生命の活動を支えて来られたのだろうか。そしてヒトはそれとどうかかわって行くのか。

新しい世紀を迎えるちょうどその時にヒトゲノムが解明された。人類学、霊長類学に対するインパクトは計り知れない。「新世紀の人類学・霊長類学」シンポジウムを企画した。日本のゲノムプロジェクトのリーダーからの基調報告に加え、人類学、霊長類学を構成する行動・社会学、形態学、脳・認知科学、分子生物学からの新しい世紀の展望をお願いした。

- 15:30～ S3-1 ヒトゲノム計画の進展と人類進化研究へ  
榊佳之(東京大・医科研)
- S3-2 生物多様性の遺伝的基礎を考える  
植田信太郎(東京大・理・生物科学)
- S3-3 アフリカ類人猿の社会生態学的研究の展望  
古市剛史(明治学院大・一般教育部), 山極寿一(京都大・理学部)
- S3-4 ヒト上科の進化—研究の現状と新しい世紀への展望  
国松 豊(京都大・霊長研)
- ～ 18:30 S3-5 類人猿の比較認知研究 - 今後10年の展望  
友永雅己(京都大・霊長研)

シンポジウム4 B会場  
古人骨の受傷痕：その事例と原因武器  
(骨考古学分科会シンポジウム・文部科学省科学研究費補助金「地域連携推進研究」協賛)

オーガナイザー：片山一道(京都大・霊長類研究所)

かならずしも多くはないが、ときに考古学の遺跡で発見される古人骨のなかには、なんらかの武器類で受傷し、それが原因の一部となって死亡したとおぼしき事例がある。ことに多く見つかるのが弥生時代の人骨である。これまでに北部九州や近畿地方のいくつかの遺跡で発見されている。このことは弥生時代になって武器類が発達し、戦争行為などの社会的な軋轢が増してきたことを物語っており、考古学で得られた知見とも合致しており、さまざまな興味を引こう。最近では、鳥取県の青谷上寺遺跡で殺傷痕らしきものが刻まれた弥生時代の人骨が大量に発見され、この問題は大きくクローズアップされることとなった。受傷痕をもつ人骨の事例が急速に増し、その原因武器と実際の損傷形態との因果関係を定量的に検討する道が開けてきたからである。このシンポジウムでは、各地の弥生時代人骨、さらには鎌倉時代の人骨で見つかった刀創痕などの事例を報告しあうとともに、古代の武具類等についての考古学の最新の知見に照らしみることによって、闘争手段や闘争形態の詳細について考えてみたい。

7月13日(金)午後

- 15:30 ~ S4-1 青谷上寺地遺跡出土弥生人骨の殺傷痕について  
井上貴央, 松本充香(鳥取大・医・第2解剖)
- S4-2 古人骨の刀創例 - 鎌倉中世人骨を中心に -  
平田和明, 奥千奈美, 星野敬吾(聖マリアンナ医大・解剖)
- S4-3 大友遺跡第5・6次発掘調査出土人骨  
中橋孝博(九州大・大学院比較社会文化研究院)
- S4-4 奈良四分遺跡で出土した弥生人骨の斬創および刺創  
大藪由美子, 片山一道(京都大・霊長研)
- S4-5 鳥取県青谷上寺地遺跡出土人骨の傷痕と武器の同定  
深澤芳樹(文化財研究所)
- S4-6 弥生時代の武器  
松木武彦(岡山大・文)
- ~ 18:30 総合討論

一般口演：骨と歯の形態学 C会場

- 15:30 C14 頭蓋最大長と上腕骨計測値の間に見いだされた強い関連  
溝口優司(科博・人類)
- 15:45 C15 脳頭蓋および顔面頭蓋各部の計測学的関連性  
竹内修二(慈恵医大・解剖), 影山幾男(日本歯大新潟・口腔解剖), 加藤征(慈恵医大・解剖)
- 16:00 C16 脳頭蓋形態の江戸時代変化について  
中島雅典(東京大学・理・人類)
- 16:15 C17 日本人頭骨底面観の時代変化  
梶川信夫(都立大・理・生物)
- 16:30 C18 リスザルの乳臼歯と大白歯の大きさ  
近藤信太郎(昭和大・歯), 名取真人(岡山理科大・理), 花村肇(愛知学院大・歯)
- 16:45 C19 現代人第一大臼歯のエナメル分布パターンの分析  
河野礼子(東京大・理・生物科学), 諏訪元(東京大・総合研究博物館)

一般口演：社会 D会場

- 15:30 D13 ワオキツネザルの性差  
相見満(京都大・霊長研), 小山直樹(京都大院・アジア・アフリカ地域研究)
- 15:45 D14 マダガスカル・ベレンティ保護区におけるワオキツネザルのオスの移出入  
小山直樹(京都大・アフリカ研)
- 16:00 D15 キンシコウの群れ構造  
福田史夫(共立薬科大), 和田一雄(西北大学), 李保国(西北大学)
- 16:15 D16 ヘックモンキー/トンケアンモンキー混血群の群れ内・群れ間の社会交渉  
榎本知郎(東海大・医・形態), 渡邊邦夫(京都大・霊長研・野外観察施

7月13日(金)午後

- 設)
- 16:30 D17 野生ケナガクモザルの日内グルーピングパターン  
下岡ゆき子(京都大・霊長研・社会)
- 16:45 D18 続・クモザルのモビングコールとロングコール  
伊沢紘生(宮城教育大)
- 17:00 D19 なぜチンパンジーは male-bond を形成するのか  
杉山幸丸(東海学園大・人文)
- 17:15 D20 野生チンパンジーの植物性植物の分配：タンザニア・マハレの事例から  
中村美知夫(日本モンキーセンター), 伊藤詞子(京都大・理・人類進化論)
- 17:30 D21 野生ボノボにおける母子間の食物分配について  
橋本千絵(京都大・霊長研・社会構造)
- 17:45 D22 《今西進化論再構築》「ヒト生態史」“種社会選択説”提起 その2 “種社会選択”の起源とメカニズム  
水幡正蔵(在野の研究者)

7月14日(土)午前

### シンポジウム5 A会場

食物は競合するものか、共有するものか(日本人類学会・日本民族学会合同シンポジウム)

オーガナイザー：山極寿一(京都大・理)

ダーウィン以来、食物はその量、質、分布の形を時と場所によって変えることで、生物の進化を左右する自然選択の主たる要因と考えられてきた。それは、生物が有限の食物をめぐる競合関係にあるとみなすからである。霊長類社会生態学は、この競合が霊長類の種間、種内にさまざまな社会関係をつくり出し、それぞれの環境や分類群に独特な行動様式や社会形態を進化させたことを論じてきた。一方、文化を発達させた人類は環境との直接的な関係を脱したとするのが文化人類学の立場であろう。人類は道具を用いて食物を採集、加工し、さらに分配や交換を通じて食物を社会的な場で共有しようとしてきた。ホモ・エレクトスの時代にこうした食物の蓄積や分配の跡が見られるとするホーム・ベース仮説は、人類が食物を仲間と共有することによって高度な社会性を発達させる基礎を築いたことを示唆している。しかし、はたして人類は食物を共有することに成功しているのだろうか。ターンブルは飢餓の中で人類が社会性を保てないことを報告した。現代の戦争は食物が人類にとって未だに負の要因となり得ることを教えてくれる。人類の独特な社会性にとって食物はいかなる影響力をもつのか。多様なアプローチから討論してみたい。

- 8:30 ~ S5-1 食物と社会の進化 - 霊長類の場合  
斉藤千映美(宮城教育大・環境教育実線センター)
- S5-2 チンパンジーの食行為 - タンザニア, マハレ山塊国立公園 M グループの事例から  
伊藤詞子(京都大・理)
- S5-3 二足歩行と食物分配  
西田正規(筑波大・歴史人類)
- S5-4 狩猟採集民の食物分配と居住集団  
北西功一(山口大・教育)
- ~ 11:45 S5-5 食料分配と飢餓・紛争 アフリカにおける人道的介入の政治性  
栗本英世(大阪大・人間科学)

### シンポジウム6 B会場

21世紀日本人の脳と身体の成長(オークソロジー分科会シンポジウム)

オーガナイザー：佐竹隆(日本大学・松戸歯・解剖)  
濱田穰(京大・霊長研・形態進化)

20世紀、日本は経済・社会的に大変動の世紀であった。日本人の生活を取り巻く環境は大きく様変わりした。経済の発展により栄養面での問題はある程度解消され、身体サイズの増大・プロポーションの変化・早熟化などの面で日本人の身体と成長に大きく影響を及ぼした。生活環境の変化は別の面にも見られる。交通事故の心配、空き地などの縮小、マンション等の住宅環境、さらには「団塊の世代」とその後の少子化などの変化である。これらの変化の影響をもっとも顕著に蒙ったのは子どもたちであろう。その第一の変化は、幼児・児童の遊びの質に見られる。最近では屋外での激しい身体運動を伴う遊びよりも、室内でほとんど身体を動かさないTV・コンピュータゲームが主体となっている。こういった幼児・児童をとり

7月14日(土)午前

まく生活環境,すなわち成長環境の変化が脳・身体の成長と発達へ,いちじるしい影響を与えているだろうことは想像にかたくない。

脳の発達 は自律的発達プログラムとともに,身体運動などを介しての外界からの刺激に依存している。この傾向は霊長類,さらにヒトで著しい。したがって子どもたちの成長環境の変化は,身体健康面のみならず精神面へも影響を与え,生活の多くの局面を左右することが考えられる。もし,20世紀のトレンドが継続されれば,将来日本社会の在り様はネガティブに大きく変化するであろうと予測される。

子どもたちの身体と精神面での変化については,多くの専門家・評論家がさまざまに論じている。ここでは「ヒトの博物学」ともいえる人類学と,それに近い霊長類学の研究者が集い,その変化について進化的・長期的・包括的な見地から論じてみたい。以下のような4つの話題を各講演者が提供し,21世紀の子どもたちの成長環境について展望し,将来構想をディスカッションしたい。

- 8:30 ~ S6-1 成長パターンの系統比較と現代人の成長  
濱田穰(京都大・霊長研・形態進化)
- S6-2 時代変化と成長  
河内まき子(経産省・産業技術総合研・デジタルヒューマン研究ラボ)
- S6-3 霊長類脳の発達 脳内機能分子の観点から  
林基治(京都大・霊長研・器官調節)
- S6-4 子どもの身体成長と運動  
佐竹隆(日本大・松戸歯・解剖)
- ~ 11:45 ディスカッション

一般口演:性 C会場

- 8:30 C20 雄による子の世話と雌の多重交配の進化モデル  
井原泰雄(東京大・理・人類)
- 8:45 C21 有限集団での性淘汰に関する理論的研究  
佐野智,青木健一(東京大・理・人類)
- 9:00 C22 オスのマントヒヒによる若齢個体に対する世話行動とハーディング行動  
森明雄(京都大学・霊長研)
- 9:15 C23 合成プロゲステロン製剤を経口投与された餌付けニホンザルメスの性行動とホルモン動態  
竹ノ下祐二(京都大・理・動物),清水慶子(京都大・霊長研),浅葉慎介(嵐山モンキーパークいわたやま)
- 9:30 C24 チンパンジーの発情期間の同期とさけあい  
松本晶子(京都大・理),粕谷英一(九州大・理),高畑由起夫(関西学院大・総合政策)
- 9:45 C25 オランウータンの性周期と社会構造  
鈴木晃(京都大・霊長研・社会構造)

7月14日(土)午前

一般口演：運動 C会場

- 10:00 C26 スローロリスとオオガラゴにおける下腿三頭筋の筋線維サイズについて  
木村忠直(静岡県大・看護), 熊倉博雄(大阪大・人間科学), 国松豊(京都大・霊長研), 石田英実(京都大・理)
- 10:15 C27 チンパンジー, マカク類における橈骨断面形状の定量分析  
菊池泰弘(佐賀医大・医・解剖), Suchinda Malaivijitnond(チュラローン  
コーン大・理・霊長類部門), 鶴殿俊史(三和化学研・霊長類パーク), 鈴木  
樹理, 濱田穰, 竹中修(京都大・霊長研)
- 10:30 C28 ニホンザルとパタスモンキーの運動発達比較  
茶谷薫(京都大・霊長研, 日本学術振興会)
- 10:45 C29 ボノボ大腿骨横断面形状の特徴  
松村秋芳, 高橋裕(防衛医大・生物), 木村賛(東京大・理・人類), 岡田  
守彦(筑波大)
- 11:00 C30 霊長類における四肢骨の湾曲と断面形状  
山中淳之, 石田英実(京都大・理・自然人類)
- 11:15 C31 傾斜した支持基体上での霊長類ロコモーションの変化について  
中野良彦, 平崎鋭矢, 岡健司, 廣川容子, 熊倉博雄(大阪大院・人間科学・  
行動形態)
- 11:30 C32 身体構造の脳内マップに基づく上肢リーチング動作の生成  
荻原直道(京都大・理・自然人類), 山崎信寿(慶應大・理工)

一般口演：古霊長類・古人類 D会場

- 8:30 D23 ミャンマーのポンダウン層(中期始新世)からみつかったアンフィピテク  
スの前頭骨の形態解析  
高井正成, 茂原信生, 鏑本武久, 江木直子(京都大・霊長研), Aye Ko Aung  
(タゴン大学), Soe Thura Tun(パテイン大学), Tin Thein(ヤンゴン大学),  
Maung Maung(マンダレー大学)
- 8:45 D24 タイ北部における化石類人猿の探索  
国松豊(京都大・霊長研), Benjavun Ratanasthien(チェンマイ大学・理),  
仲谷英夫(香川大・工), 三枝春生(姫路工大・自然環境科学研), 長岡信  
治(長崎大・教), 矢部淳(福井県立恐竜博物館)
- 9:00 D25 中期中新世類人猿, ナチョラピテクスの性差: 歯牙のサイズを中心に  
して  
石田英実, 清水大輔, 高野智, 中務真人(京都大・理・自然人類), 国松  
豊(京都大・霊長研・形態進化), 中野良彦(大阪大・人間科学・生物人  
類)
- 9:15 D26 ジャワ原人とオランウータンは共存していたか? - 遊離歯における原人  
と大型類人猿の判別 -  
海部陽介, 馬場悠男(国立科学博物館・人類), F. アジズ(バンドン地  
質研究開発センター・古生物)
- 9:30 D27 コンソ遺跡群の動物相と古環境  
諏訪元(東京大・総研博), 仲谷英夫(香川大・工), B. Asfaw(RVRS),

7月14日(土)午前

- 9:45 D28 Y. Beyene (CRCCH), 加藤茂弘 (兵庫県立人と自然の博物館)  
中国南部雲南省から産出した *Homo erectus* (元謀原人) の年代と古環境  
仲谷英夫 (香川大・工), 兵頭政幸 (神戸大・内海域機能研), 三枝春生 (姫  
路工業大・自然環境科学研), 卜部厚志 (新潟大・積雪地域災害研), 薛順  
栄 (雲南省地質科学研), 尹濟雲 (雲南省地質科学研), 吉学平 (雲南省文  
物考古研)
- 10:00 D29 葛生出土「人骨」資料群の年代について  
松浦秀治, 近藤恵 (お茶大・生活科学)

一般口演：変異・系統 D会場

- 10:15 D30 ニホンザルのミトコンドリア遺伝子変異の地理的分布  
川本芳 (京都大・霊長研・集団遺伝)
- 10:30 D31 成体オスの頭蓋計測値からみたニホンザルの地域変異  
毛利俊雄, 西村剛 (京都大・霊長研・形態進化)
- 10:45 D32 海岸山脈地域一帯におけるフサオマキザル (*Cebus apella*) の系統分類学的  
位置づけ 3  
小林秀司 (中京女子大・人文), 名取真人 (岡山理科大・理), L.M. ペッソ  
ア (リオ連邦大), J.A. オリベイラ (リオ国立博物館), A.L. ラングッチ (パ  
ライーバ連邦大), 瀬戸口烈司 (京都大・理・地質鉱物)

7月14日(土)午後

シンポジウム7 B会場  
ヒトを含む霊長類におけるDNA多型(第18回会遺伝分科会会合)

オーガナイザー: 針原伸二(東京大・理・人類)

座長: 徳永勝士(東京大・医)

DNA多型は、多くの生物種で認められ、種内変異の実態や集団分化の機構の解明、生態学・行動学などの多様な観点からの研究が進められている。また、特にヒトにおいては医学・医療から、家畜動物や栽培植物においては、系統管理という応用的な面からの研究が数多くなされている。しかしながら、これまでは異なる生物種のDNA多型を並列的に比較するような視点での議論は乏しかった。本シンポジウムは、異なる分野の研究の交流によって、DNA多型の種を超えた普遍性、種あるいは遺伝子ごとの特殊な事情を浮き彫りにし、生物界の種々の多様性の意義にまでいたる議論を期待している。

発表はヒトについての研究を2題(清水宏次氏、西向弘明氏)、サルについての研究を2題(嶋田誠氏、竹中修氏)のほか、イヌの研究を1題(新美陽子氏)を1題、予定している。霊長類以外の哺乳類の種についても研究を紹介し、さらに広い視野からの議論に期待している。

また、5名の発表者のほか、座長に徳永勝士氏、コメンテーターとして、今西規氏と村山美穂氏を予定して、それぞれの専門からの議論や問題提起をはかっていただくこととした。

- 14:30 ~ S7-1 南米コロンビアの原住民集団において見出されるアフリカ型の グロビン遺伝子群ハプロタイプの再検討  
清水宏次(鳴門教育大), 針原伸二(東京大・理), 田島一雄(愛知がんセンター), 園田俊郎(鹿児島大・医)
- S7-2 野生 savanna monkey における集団遺伝学的研究  
嶋田 誠(国立遺伝研・進化遺伝研究分野)
- S7-3 アジアおよびヨーロッパの集団における補体C9欠損遺伝子R95Xの分布  
西向弘明(愛媛大・医), 沖浦達幸(愛媛大・医, 愛媛科捜研), 西村浩治(愛媛大・医), 福森泰雄(大阪府赤十字血液センター), 針原伸二(東京大・理)
- S7-4 イヌにおけるドーパミン受容体D4遺伝子多型領域の解析  
新美陽子, 松浦直人, 井上-村山美穂, 伊藤慎一(岐阜大・農)
- S7-5 霊長類進化過程での遺伝子獲得と新たな生理機構の獲得 突然変異による喪失  
竹中 修(京都大・霊長研)

~ 17:30

コメンテーター: 井上-村山美穂(岐阜大・農), 今西規(産業技術研)

シンポジウム8 C会場  
骨盤: 歩行と出産のパラドックス(キネシオロジー分科会第46回シンポジウム)

オーガナイザー: 馬場悠男(科博・人類)

人類が直立二足歩行を獲得するにあたって、最も大きな変化を遂げたのは骨盤の構造である。内臓を容れ、体幹と上体を支え、下肢を駆動するために、骨盤は、シャモジを二つ並べ

7月14日(土)午後

たような構造からドンブリのような構造になった。その結果、女性は、シャモジの柄の間からではなくドンブリの底から赤ん坊を産まなければならなくなった。しかも、脳容積の増加と共に、頭の巨大化した赤ん坊は、ドンブリの底にあってはいる骨盤口を(進化の過程でも、妊娠期間中でも、出産時でも)無理矢理押し広げ、歩行のための最適な構造を脅かそうとしている。一方、出産義務のない男性は、不届きにも、歩行のために最適な構造を取ろうとして、骨盤に性差を生じさせている。

- 14:30 ~ S8-1 骨盤の進化と明石寛骨の解釈  
馬場悠男(国立科学博物館・人類)
- S8-2 骨盤から得られる古人口学的情報一年齢と妊娠経験の多寡一  
五十嵐由里子(日大・松戸歯・解剖)
- S8-3 現代日本人骨盤の3次元形状の性差  
高橋秀雄(独協医科大・解剖)
- ~ 17:30 S8-4 現代日本人骨盤性差に関する三次元的形態解析  
松川慎也(東京大院・理学)

一般口演：保護・管理 A会場

- 15:45 A1 桂皮酸アミドを用いたニホンザルにおける嫌悪条件付け  
室山泰之(京都大・霊長研・野外施設), 杉浦秀樹(京都大・霊長研・社会生態), 飯田景子, 浅岡一雄(京大・霊長研・分子生理)
- 16:00 A2 青森県西目屋村における猿害の事例報告  
安岡宏和(京都大・アア地域研究科・アフリカ)
- 16:15 A3 野生ニホンザルによる農作物被害の現状と対策ー白神山地山麓地域の事例ー  
今井一郎(関西学院大・総合政策, 白神山地野生ニホンザル研究会), 和田一雄(野生生物保護学会)
- 16:30 A4 川辺川流域の野生ニホンザルーその被害と生息状況ー  
藤井尚教(尚綱大・文)

一般口演：成長・老化 D会場

- 15:30 D33 チンパンジー脳形態の生後発達  
三上章允(京都大・霊長研・行動発現), 西村剛(京都大・霊長研・形態進化), 田中正之, 友永雅巳, 松沢哲郎(京都大・霊長研・思考言語), 鈴木樹里, 加藤朗野, 松林清明, 後藤俊二, 橋本ちひろ(京都大・霊長研・進化モデルセンター)
- 15:45 D34 チンパンジー幼児における音声器官形態の成長変化(予報)  
西村剛(京都大・霊長研・形態進化), 三上章允(京都大・霊長研・行動発現), 早川清治, 濱田穰(京都大・霊長研・形態進化)
- 16:00 D35 ニホンザルの体脂肪とその季節変化  
濱田穰, 早川清治(京大・霊長研・形態), 鈴木樹里(京大・霊長研・人

7月14日(土)午後

- 進センター), 大蔵聡(農水省・家畜試験場)
- 16:15 D36 北京の子どものTW2骨成熟  
芦澤玖美, 熊倉千代子, 史周霞(大妻女子大・人間生活科研), 金峰, 曹  
京魏(中国科学院・遺伝研), 楠本綾乃(株式会社シンエイ)
- 16:30 D37 パプアニューギニアにおけるフリ高地人とマヌス島嶼民の成長と栄養  
河辺俊雄(高崎経済大・地域政策・人類生態)
- 16:45 D38 体型の発達と運動能力の発達の関係  
高井省三, 増尾奈々絵(筑波大・体育),
- 17:00 D39 高齢期の大腿骨近位部骨密度の経年的変化に関連する要因の分析  
鈴木隆雄, 吉田英世, 金憲経(東京都老人研・疫学)
- 17:15 D40 透過電顕による骨格筋年齢変化に関する予備的研究  
北條暉幸(産業医科大 名誉教授)

7月15日(日)午前

シンポジウム9 A会場  
人類進化とアフリカの植生

オーガナイザー：西田利貞(京都大・理)

ヒトとアフリカ大型類人猿の共通祖先が森林に住んでいて、ヒトの祖先がサバンナに進出したことによってヒト化の過程が始まったというのは、人類学の長年のドグマであった。つまり、直立二足歩行も道具使用も狩猟も、すべてサバンナ進出とともに始まったと考えられてきた。しかも、二足歩行が始まると、それはホモ・サピエンスに向かって(!)まっすぐに進化していくと考えられてきた。しかし、最近の20年の証拠から、中新世の大型類人猿が本当に森林に住んでいたのか、初期人類がサバンナに住んでいたのか、疑問が呈せられているし、直立二足歩行がホモ属誕生を保證するものでもないことは、すでに明らかである。中新世類人猿やごつ型・やさ型タイプの猿人の生息環境の復元、ヒト以外の大型類人猿のうち、サバンナ環境にも住むチンパンジーの生態、一方では大型類人猿の生息環境と考えられてきた森林に住むホモ・サピエンスの生態を知ることによって、人類進化のプロセスについてより確かな姿を探りたい。

- 8:45 ~ S9-1 中新世の大型類人猿の生息する生物相  
巻島美幸(京都大・理)
- S9-2 サバンナ・ウッドランドと人類進化  
伊谷原一(林原自然科学博物館・人類学研究部)
- S9-3 初期人類の環境利用  
諏訪元(東京大・総合博物館)
- ~ 12:00 S9-4 熱帯森林と人類進化  
佐藤弘明(浜松医大・社会学教室)

シンポジウム10 B会場  
顎と歯の機能形態学 - 霊長類からヒトへ - (歯の人類学分科会シンポジウム)

オーガナイザー：金澤英作(日大・松戸歯)

近年、有限要素法を用いての歯や顎の応力解析の進歩はめざましいものがあり、その解析も2次元から3次元へと複雑さを増している。今回のシンポジウムではそれらのテクニカルな進歩をふまえた上で、もう一度形態にスポットを当てて、歯の形態や植立状態、あるいは顎骨の形態や顎位の意義を霊長類からヒトへの長いスパンの中で討議する。演者は霊長類学・人類学から2名と臨床歯科学から2名であるが、それぞれの分野の比較によりその差異と同一性の確認を目指す。

- 8:45 ~ S10-1 ヒト上科顎骨の生体力学  
山下真幸(獨協医大・解剖)
- S10-2 アカコロブスにおける咬耗と咀嚼効率の関係  
清水大輔(京都大院・理, 学振)
- S10-3 下顎骨における適応変化の生体力学的解析  
榎宏太郎(昭和大・歯), 伊能教夫(東工大・理工), 柴崎好伸(昭和大・歯)

7月15日(日)午前

~ 12:00 S10-4 下顎側方偏位における大臼歯の歯系補償機構  
川村全, 葛西一貴 (日大・松戸歯)

一般口演: 遺伝子多型・ゲノム C会場

- 8:45 C33 霊長類におけるスーパーオキシドディスムターゼの分子進化及びゲノム解析  
福原亮史 (京都大学霊長研進化モデルセンター), 手塚修文 (名古屋大情報文化), 影山節 (京都大学霊長研進化モデルセンター)
- 9:00 C34 マダガスカル産原猿類における MHC 遺伝子の多様性  
郷康広, 平井啓久, 川本芳 (京都大・霊長研), Gilbert Rakotoarisoa, Albert Randrianjafy (マダガスカル・チンバザザ動植物園), 小山直樹 (京都大・アフリカ研)
- 9:15 C35 チンパンジー主要組織適合複合体(MHC)クラス II 鎖コード遺伝子の解読  
吉川泰弘, 八田友紀, 久和茂 (東京大・農・実験動物), 松本芳嗣, 小野寺節 (東京大・農・応用免疫)
- 9:30 C36 中国南部漢民族における HLA 遺伝子多型  
杉森芽里奈, 大橋順, 中伊津美 (東京大・医・人類遺伝), 斎藤成也, 野田令子 (遺伝研・進化遺伝), 金鋒, 王瀝 (中国科学院・遺伝研), 徳永勝士 (東京大・医・人類遺伝)
- 9:45 C37 アジア人集団において見出される グロビン遺伝子群の 3ハプロタイプとフレームワークの関係  
清水宏次 (鳴門教育大), 西向弘明, 西村浩治, 沖浦達幸 (愛媛大・医・法医), 針原伸二 (東京大・理・人類), 金鋒 (中国科学院・遺伝研), 尾本恵市 (桃山学院大)
- 10:00 C38 霊長類におけるモノアミンオキシダーゼ A 遺伝子の多型解析  
井上一村山美穂, 新美陽子, 三島徳子, 松浦直人 (岐阜大・農), 竹中修 (京都大・霊長研), 早坂郁夫 (三和化学・熊本霊長類パーク), 村山裕一 (農水省・家畜試, 科技団・科技特)
- 10:15 C39 霊長類遺伝子データベース  
坂手龍一 (東京大・理), 肥田宗友 (東京大・医科研・ゲノム構造解析, 国立遺伝研・生命情報研究センター), 菅野純夫 (東京大・医科研・ゲノム構造解析), 橋本雄之 (国立感染研・遺伝子資源), 早坂郁夫 (三和化研・熊本霊長類パーク), 寺尾恵治 (筑波・霊長類センター), 平井百樹 (東京大・新領域)
- 10:30 C40 類人猿とヒトの比較ゲノム解析  
斎藤成也, 金衝坤, 北野誉, 嶋田誠, 野田令子, 高橋文, 富木毅, Kirill Kyukov (遺伝研・進化遺伝),
- 10:45 C41 subtractive hybridization によるヒトに特異的な塩基配列の単離とその同定  
大西啓介, 植田信太郎 (東京大・院理・生物科学),
- 11:00 C42 カニクイザル脳由来完全長 cDNA ライブラリーからの新規遺伝子の探索及び解析

7月15日(日)午前

- 長田直樹(東京大・理・生物), 肥田宗久(東京大・医科研・ゲノム構造解析), 楠田潤, 田沼玲子, 伊関可奈子, 平田誠(国立感染研・遺伝子資源), 平井百樹(東京大・新領域・先端生命), 数藤由美子(東京大・理・生物), 橋本雄之(国立感染研・遺伝子資源)
- 11:15 C43 ヨザル赤緑視物質遺伝子のY染色体転座  
竹中直美, 平井百樹, 河村正二(東京大・新領域)
- 11:30 C44 ニホンザルにおけるスギ花粉症の疫学的研究  
泊賢一郎, 和秀雄(大阪大・人間科学・生物人類)

7月15日(日)午後

公開シンポジウム2 A会場

快適環境新時代：21世紀の過ごし方を考える

オーガナイザー：黒田末寿（滋賀県立大・人間文化）

科学技術の進歩によって現代人は生活環境の快適化に成功してきたが、一方では体力の弱  
化、地球温暖化など予期せぬ落とし穴が多くあることも明らかになってきた。このシンポジ  
ウムでは人類にとっての快適環境を見直し、そのうえで必要な快適環境を作り出すための基  
本的な考えとシステムを探りたい。

13:00～

シンポジウム趣旨・パネラー紹介

黒田末寿（滋賀県立大・人間文化）

快適性の多様性－医療人類学の立場から－

波平恵美子（お茶の水大・文教）

今様桃源郷への道－老人生活者の立場から－

香原志勢（帝塚山学院大・人間文化）

快適性と精神性：ジャパニーズ・コンフォートについて

栄久庵憲司（株式会社 GK デザイン機構 会長）

人間の快適環境と地球環境

加藤尚武（鳥取環境大）

快適に働くこと－アジアのネットワーク経験－

小木和孝（財団法人労働科学研究所 常務理事）

コメント・総合討論

快適さと製品設計－人間中心設計を確立するために－

藤井秀雪（株式会社七彩・広報・造形企画）

人類の身体進化と適応力

馬場悠男（国立科博・人類）

自由発言

～ 16:50

日高敏隆（総合地球環境学研）

## ポスター発表

ポスター貼付 7月13日(金)午前中  
ポスター撤去 7月14日(土)17:00~18:30

P1~P38 103室  
P39~P91 104室

奇数番号 指定討論時間 7月13日 13:15~14:00  
偶数番号 指定討論時間 7月14日 12:45~13:30

- P1 港川人1号頭蓋X線像の特徴  
馬場悠男(国立科博・人類)
- P2 歯の非計測的形質からみた中国江蘇省高郵・龍庄遺跡出土新石器時代人骨の特徴  
真鍋義孝, 小山田常一, 北川賀一, 六反田篤(長崎大・歯・口腔解剖第1),  
松下孝幸(土井ヶ浜遺跡人類学ミュージアム)
- P3 上下顎第一大臼歯の咬頭頂間距離を用いた縄文人と渡来系弥生人の判別  
鈴木敏彦(東北大・院歯・器官組織構造)
- P4 歯の形態からみる東南アジア人の二重構造  
松村博文(科博・人類)
- P5 AMS<sup>14</sup>C年代にもとづくフィリピン・カガヤン河貝塚群の編年  
三原正三(九州大院・比文), 奥野充(福岡大・理), 小川英文(東京外国語  
大), 田中和彦(敬愛大), 中村俊夫(名古屋大・年代セ), 小池裕子(九州大院・比  
文)
- P6 波照間島大泊浜貝塚出土の人骨  
土肥直美, 石田肇, 譜久嶺忠彦(琉球大・医・第1解剖), 埴原恒彦(佐賀医  
大・解剖)
- P7 ヤッチのガマ出土近世人骨の頭蓋骨の形態学的特徴について  
譜久嶺忠彦, 土肥直美, 石田肇(琉球大・医・第一解剖), 西銘章(沖縄県  
教育委員会)
- P8 佐賀県鳥栖市安永田遺跡出土の弥生時代人骨  
分部哲秋, 佐伯和信, 岡本圭史, 長島聖司(長崎大・医・解剖2)
- P9 北海道常呂町トコロチャシ遺跡出土人骨  
佐宗亜衣子, 石田肇(琉球大・医・第一解剖), 埴原恒彦(佐賀医大・解剖),  
宇田川洋, 熊木俊朗(東京大院・人文)
- P10 南九州山間部地域出土古墳時代人骨の外耳道骨種  
佐伯和信, 分部哲秋, 岡本圭史, 長島聖司(長崎大・医・第二解剖)
- P11 デデリエ洞窟出土の遊離歯・断片人骨資料  
近藤修(東京大院・理・人類), 百々幸雄(東北大院・医・人体構造), 石田  
肇(琉球大・医・第1解剖)

ポスター発表

- P12 小塚原刑場跡出土人骨について  
大谷江里(東京大・理・進化)
- P13 ナチョラピテクスの大腿骨近位部のプロポーション  
高野智, 中務真人, 石田英実(京都大・理・自然人類)
- P14 ナチョラピテクス指骨の機能形態  
中務真人, 石田英実(京都大・理・自然人類), 国松豊(京都大・霊長研・形態進化), 中野良彦(大阪大・人間科学・生物人類)
- P15 北ケニア, サンプルヒルズ地域のウシ科化石と古環境  
辻川寛(京都大・理・自然人類)
- P16 ポンダウン霊長類の体重推定  
江木直子(国立科博・地学), 高井正成, 茂原信生(京都大・霊長研), 鐔本武久(京都大・理・地質鉱物)
- P17 ニホンザルのアトラス・ブリッジ形成  
山本亜由美, 国松豊(京都大・霊長研)
- P18 野生ニホンザルの骨疾患 - 長野, 107 個体の分析から -  
中井将嗣(京都大・霊長研・形態/学振)
- P19 CT画像における体幹筋の年代別観察  
猪口清一郎, 柴田昌和, 伊藤純治(昭和大・医・解剖), 松村秋芳(防衛医大・機能形態)
- P20 ニホンザル横隔膜腰椎部筋束は肋骨部や胸骨部と異なる特性を持つか  
高橋裕, 松村秋芳(防衛医大・生物), 濱田穰(京都大・霊長研・形態進化)
- P21 ニホンザル腰部固有背筋の筋束構成と筋構築  
小島龍平(埼玉医科大学短期大・理学療法)
- P22 ニホンザル坐骨神経の神経束構築 - 特に腓腹神経の分岐様式について -  
関谷伸一(新潟県立看護短大)
- P23 ヒトおよびサル下肢筋の相対重量と筋線維構成  
伊藤純治(昭和大・医・解剖)
- P24 霊長類胸鎖乳突筋の形態と機能(1)  
熊倉博雄(大阪大・人間科学・行動形態)
- P25 原猿の肩の筋の機能解析 - マカクとの比較 -  
藤野健(老人研), 熊倉博雄(大阪大・人間科学), 桜木晃彦(北里大・解剖)
- P26 現代日本人前腕伸筋群の肉眼解剖学的観察  
吉田行夫, 岡崎勝至(愛知医大・医・解剖)
- P27 数種霊長類舌乳頭の比較解剖学的研究  
岡田成賛, Dean E. Schraufnagel(イリノイ州立大シカゴ校・医・呼吸内科), Shahid H. Ashrafi(イリノイ州立大シカゴ校・歯・口解)
- P28 ヒト静止立位姿勢時における足圧中心点移動スピード  
植竹照雄(東京農工大・農), 田中秀幸(東京農工大・工), 進藤正雄, 岡田守彦(筑波大・体)
- P29 ヒト乳児の quadrupedal walking の発達(第2報)  
安倍希美(北里大・般教・体育)
- P30 転倒時の姿勢保持のための第1歩  
米井聡, 小西正良(大阪リハビリ専門学校)
- P31 ヒト歩行時における頭部と体幹の冠状面内での動き

- 平崎鋭矢, 熊倉博雄, 俣野彰三 (大阪大院・人間科学・行動形態)
- P32 Secular Changes of the Head Dimensions in Japanese Females  
Golam Hossain, Fumio Ohtsuki (Tokyo Metropolitan University)
- P33 人為的頭蓋変形の前頭骨 glabella 周辺の形態変化について  
亀谷哲也(元岩手医大・矯正), 坂下玲子(熊本大・医療短大), 井上直彦(元東京大), 小椋幹記(鹿児島大・矯正)
- P34 頭部 X 線規格写真計測法による日本人女性骨格性下顎前突症の形態学的研究  
橋本登(大阪歯科大学・歯科矯正)
- P35 顎骨の基質線維とハバース系の構築に関する研究  
江川薫, 野中直子(昭和大・歯・口腔解剖)
- P36 日本人と白人における上顎前突者群の矯正治療効果とその形態的特徴について  
浜田充彦(大阪歯科大学・歯科矯正学講座)
- P37 中切歯唇側面辺縁隆線のエナメル質と象牙質での比較  
佐々木佳世子, 松野昌展, 中山光子, 野木隆久, 金澤英作(日本大・松戸歯・解剖)
- P38 頭蓋冠と骨口蓋の縫合を用いた新しい年齢推定式  
五十嵐由里子, 久保田公雄, 佐竹隆, 金澤英作(日本大・松戸歯・第一解剖)
- P39 MHC クラス I 遺伝子タイピングのチンパンジー繁殖計画への応用  
田上哲也, 友栗徹士, 早坂郁夫(三和化学研究所), 松井政則, 町田早苗, 赤塚俊隆(埼玉医大・微生物), 斎藤成也, 金衝坤, 小原雄治(国立遺伝研), 吉川泰弘(東京大・農学生命科学)
- P40 チンパンジー野生集団および飼育個体におけるミトコンドリア DNA D-loop 変異  
嶋田誠(遺伝研・進化遺伝), 早川祥子(京大・霊長研・生態機構), 斎藤成也(遺伝研・進化遺伝), 杉山幸丸(東海学園大・人文)
- P41 ヒト Y 染色体の DNA 多型からみるアジア諸集団の遺伝的關係  
田嶋敦(総研大・先導・生命体), 潘以宏(台湾大・医), フーチャロン G., フーチャロン S.(コンケン大・医), 松尾雅文(神戸大・医・国際保健), 徳永勝士(東京大・医・人類遺伝), 十字猛夫(日赤中央血液センター), 速水正憲(京大・ウイルス研・感染病態), 尾本恵市(桃山学院大・文), 宝来聰(総研大・先導・生命体)
- P42 ヒト上科におけるテロメア配列のゲノム内分布  
平井啓久(京大・霊長研・遺伝子情報)
- P43 ヒトとカニクイザル mRNA 5' 領域の比較  
肥田宗友(東京大・医科研・ゲノム構造解析, 国立遺伝研・生命情報研究センター), 坂手龍一(東京大・理), 鈴木穰, 菅野純夫(東京大・医科研・ゲノム構造解析), 五條堀孝(国立遺伝研・生命情報研究センター), 橋本雄之(国立感染研・遺伝子資源), 寺尾恵治(筑波・霊長類センター), 平井百樹(東京大・新領域)
- P44 ミャンマー北部の一地域(ミッチーナ)に分布する JC ウイルスゲノム型  
猿渡れい(愛知学院大・歯・解剖 1), 杉本智恵(東大医科研・ウイルス感染), 酒井英一(愛知学院大・歯・解剖 2), 余郷嘉明(東大医科研・ウイルス感染), 大野紀和(愛知学院大・歯・解剖 1)
- P45 古代テオティワカン集団の mtDNA 多型解析  
佐藤大輔(東京大・院理・生物科学), 黒崎久仁彦(東京医大・法医), 王瀝(東京大・院理・生物科学), 杉山三郎(愛知県立大・外国語), 植田信太郎(東京大・院理・生物科学)

ポスター発表

- P46 国内飼育チンパンジーの亜種分析  
篠田謙一(佐賀医大・解剖), 鷓殿俊史(三和化学・熊本霊長類パーク), 吉原耕一郎(多摩動物園), 竹中修(京都大・霊長研・分子生理)
- P47 飼育下マカクザルにおけるエルシニア感染の遺伝子診断  
小笠原麻美, 松林伸子, 三輪宣勝, 釜中慶朗, 阿部政光, 橋本ちひろ, 加藤朗野, 景山節(京都大・霊長研・進化モデルセンター)
- P48 カニクイザルでの GnRH アゴニストと hMG 投与による卵胞発育誘起とその内分泌学的解析  
広瀬良宏(感染研), 岡田浩典(東農大・感染研), 伊藤雅夫(東農大), 吉田高志(感染研), 山海直(感染研)
- P49 カニクイザルの顕微授精胚の移植による初の出産と胚性幹細胞株の樹立  
鳥居隆三(滋賀医大・動物施設), 細井美彦, 藤波菜穂子(近大・生物理工), 和秀雄(大阪大・人間科学), 入谷明(近大・生物理工)
- P50 カニクイザル円形精子細胞からの精子発生のための体外培養系における hFISH および IGF-I 添加の影響  
岡田浩典(東農大・感染研), 広瀬良宏(感染研), 伊藤雅夫(東農大), 山海直(感染研)
- P51 人工哺育中カニクイザルの肺炎  
榊原一兵(感染研・霊長類センター), 小野文子(予防衛生協会), 山田章雄(感染研)
- P52 ヘックモンキーの精巢の組織学的特徴 - スラウェシマカクの種分化に関連して  
中野まゆみ, 榎本知郎(東海大学・医・形態), 後藤俊二, 渡邊邦夫(京都大学・霊長研)
- P53 尿中ホルモン動態からみたチンパンジーの人工授精・妊娠・出産  
清水慶子, 吉村有実絵, 光永総子, 林基治, 熊崎清則, 前田典彦, 加藤朗野, 松林清明, 道家千聡, 田中正之, 友永雅己, 松沢哲郎(京都大・霊長研)
- P54 ウーリーモンキーの行動域 - 季節変化と長期的変遷 -  
西邨顕達(同志社大学)
- P55 混群を形成するオナガザルの遊動  
足立薫(京都大・理・動物)
- P56 ウガンダ・カリンズ森林におけるグエノンの無脊椎動物食  
田代靖子(京都大・霊長研)
- P57 チンパンジーとオナガザル類の食物重複  
五百部裕(梶山女大・人間関係)
- P58 タンザニア・マハレ山塊国立公園におけるマダニ類の季節消長とチンパンジーの毛づくろい  
座馬耕一郎(京都大・理・人類進化論)
- P59 チンパンジーの地上性行動の割合にみられる季節変化  
竹元博幸(京都大・霊長研)
- P60 チンパンジーの社会的相互交渉における「無視」の諸特徴  
坂巻哲也(京都大・理・人類進化論)
- P61 ニホンザルのコドモの社会関係に母親の社会関係は影響を及ぼすのか?  
柏原将(京都大・霊長研・社会構造)
- P62 ニホンザルの老メスの役割

ポスター発表

- 中道正之(大阪大・人間科学), 糸魚川直祐(武庫川女子大・文)
- P63 屋久島の西部林道周辺における野生ニホンザルの個体数変動とモニタリング方法  
杉浦秀樹(京都大・霊長研), 揚妻直樹(北海道大・苫小牧研究林), 田中俊明(東京大・総合文化)
- P64 屋久島の野生ニホンザルオスにおける交尾戦術  
松原幹(京都大・理・動物)
- P65 勝山ニホンザル集団における発見率を用いた周辺オスの離脱の予測  
加藤英子(大阪大・人間科学・比較行動)
- P66 ネガティブな情動反応を引き起こす状況下でのアカゲザルの鼻部温度変化  
中山桂, 後藤俊二, 倉岡康治, 友永雅己, 中村克樹(京大・霊長研)
- P67 ニホンザルとヒトは視線・指さし対象を相互理解する  
神代真里(東京医歯大・院・顎顔面生理), 板倉昭二(京都大・文・心理), 入来篤史(東京医歯大・院・顎顔面生理)
- P68 ニホンザルの母ザルによる生後 4-6 週齢のアカンボウの発声の聞き分け  
志澤康弘(大阪大・人間科学・比較行動論)
- P69 サルは規則的な視覚パターンを偏好するか?  
桑畑裕子, 黒島妃香(京都大・文・心理), James R. Anderson(スターリング大), 藤田和生(京都大・文・心理)
- P70 フサオマキザル(*Cebus apella*)における色覚の個体差と採食行動  
齋藤慈子(東京大・総合文化), 上野吉一(京都大・霊長研), 河村正二(東京大・新領域創成科学), 長谷川寿一(東京大・総合文化)
- P71 カニクイザルにおける視野測定系の確立  
笹岡正顕, 中村克樹(京都大・霊長研・神経行動)
- P72 視覚誘導性眼球運動反応時間を決定する要因の解析  
平井直樹, 鈴木貴美(杏林大・医・生理)
- P73 チンパンジーによる 15mタワー利用の比較  
上野吉一(京都大・霊長研), 森村成樹(林原自然科学博物館), 木場礼子(日女大)
- P74 チンパンジーの移動に関する研究 - 野外実験場におけるビデオ資料からの解析  
大橋岳, 松沢哲郎(京都大・霊長研)
- P75 ケージ飼育のニホンザルの垂直空間利用  
寺澤直子, 中山桂, 友永雅己(京都大・霊長研)
- P76 米国における新たなゴリラ飼育の試み  
吉田浩子(川崎医療福祉大学), Jane and Stuart Dewar(Dewar Wildlife Trust)
- P77 チンパンジーにおける砂の対象操作  
武田庄平, 筒井紀久子(東京農工大・比較心理), 松沢哲郎(京都大・霊長研・思考言語)
- P78 子どもチンパンジーにおける物を使った遊び  
関根すみれな(林原自然科学博物館), 竹下秀子(滋賀県立大・人間文化), 森村成樹, 不破紅樹, 伊谷原一(林原自然科学博物館)
- P79 チンパンジーにおける道具使用行動の選択性  
森村成樹, 関根すみれな, 伊谷原一(林原自然科学博物館)
- P80 チンパンジーはチンパンジーが好きか?  
田中正之(京都大・霊長研)

ポスター発表

- P81 チンパンジー乳児における「微笑」行動に関する発達の検討  
水野友有(滋賀県立大・人間文化), 明和政子, 友永雅己, 松沢哲郎(京都大・霊長研・思考), 竹下秀子(滋賀県立大・人間文化)
- P82 チンパンジー乳児における絵画的奥行き知覚の発達  
伊村知子(関西学院大・文・心理), 友永雅己(京都大・霊長研), 今田寛(関西学院大・文・心理)
- P83 チンパンジー乳児における情動を伴った自発的な発声  
中島野恵, 松沢哲郎, 友永雅己, 田中正之(京都大・霊長研・思考言語)
- P84 チンパンジー乳児における他者の視線追従能力の発達の検討  
岡本早苗(名古屋大・文), 川合伸幸(名古屋大・人情), 石井澄(名古屋大・文), 友永雅己, 松沢哲郎(京都大・霊長研)
- P85 チンパンジー母子における対象物の好み  
井上(中村)徳子, 明和正子(京都大・霊長研・行動神経), 林美里(京都大・教育), 松沢哲郎(京都大・霊長研・行動神経)
- P86 チンパンジー母子間における食物を介した相互交渉  
上野有理, 山越政子, 松沢哲郎(京都大・霊長研)
- P87 匂いに対するチンパンジー乳児の反応  
大枝玲子(東京大・総合文化), 上野吉一(京都大・霊長研), 長谷川壽一(東京大・総合文化), 友永雅己(京都大・霊長研)
- P88 飼育チンパンジー 3 母子の居室での空間利用について  
落合知美, 松沢哲郎(京都大・霊長研・思考言語)
- P89 霊長類乳児による生物的運動の認識  
石川悟, 藤田和生, 桑畑裕子(京都大院・文・心理), 友永雅己, 松沢哲郎(京都大・霊長研・思考言語)
- P90 Cases and Implications of Object Sharing in Captive Chimpanzees  
Maura Celli, Masaki Tomonaga (Kyoto University), Toshifumi Udono, Migaku Teramoto, Kunitoshi Nagano (Sanwa Kagaku Kenkyusho)
- P91 嵐山ニホンザルの「石遊び」行動の研究  
西江仁徳(京都大院・理・人類進化論)

